

駿河漆器

ぬ し
七人の塗師展

Lacquerware craftsmans Exhibition

協力：静岡漆器工業協同組合

後援：静岡市 静岡特産工業協会 公益財団法人静岡産業振興協会

2022.12.16 FRI – 2023.01.29 SUN

開館時間：10:00-19:00(ご入場は閉館の30分前まで) 入場無料 月曜休館 年末年始休業：12/30(金)・12/31(土)・1/1(日)・1/2(月)



匠宿伝統工芸館

TAKUMISHUKU TRADITIONAL CRAFTS MUSEUM

<https://takumishuku.jp>

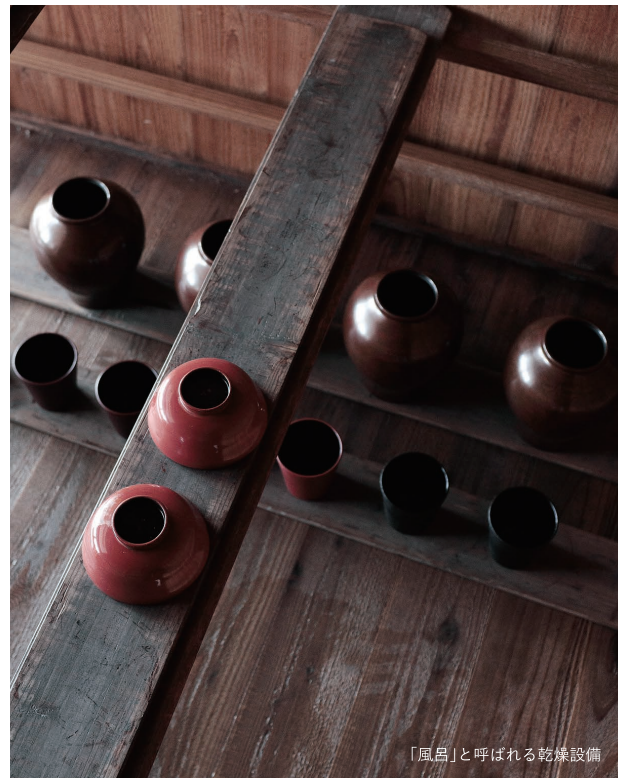
静岡の塗りと、そのぬし。

漆器が静岡に根を下ろすきっかけとなった浅間神社造営。拝殿の全てを金・銀でちりばめ、総漆塗りを施した仕事は、全国各地から優れた漆工たちを集めて行われました。造営後も漆工たちが定着し技を磨く一方、広く土地の人達に漆工技術を教えたといわれています。江戸幕府の保護奨励をうけ、その漆器は参勤交代の大名たちに土産品として好まれました。さらに開国とともに海外へも輸出され、当時の輸出漆器の大部分を占めました。

静岡の漆器の特徴は、変わり塗りです。これは幅広い漆器の需要にともない開発されたもので、塗りの段階で職人それぞれが工夫を凝らし、各々が違った色を持つようになりました。

塗師(ぬし)とは、漆を塗る職人の古称です。静岡では現在も様々な漆を施す塗師の多くが静岡漆器工業協同組合に所属しています。

今回は、その中の七人の塗師の技を展示いたします。それぞれの持つそれぞれの色をお楽しみください。



出展作家

新井吉雄(あらい漆工房)
安藤嘉津夫(安藤漆工房)
石川秀次郎(めぐみ工房・石川)
鳥羽俊行(鳥羽漆芸)
藤中知幸(漆器製造販売藤中)
八木信重(八木漆器)
塩澤佳英(SHIOZAWA漆工所)

静岡漆器工業協同組合

伝統の技法を継承しながらも、常に新しい塗りを創造し続けた職人たちの努力と研究によって「紅輝塗」「浮島塗」「蜻蛉塗」「珊瑚塗」などの独自のデザイン・技法が生み出され、「金剛石目塗」のような強靱な下地塗りの技術が開発されるなど、先人たちによる貴重な遺産を原点に持つ駿河漆器。

2007年、駿河漆器は特許庁による地域団体商標制度「地域ブランド」の商標権を取得。これにより「駿河漆器」のブランド名のもと、「伝統の技と心を守り育てながら、それを現代の漆器づくりに生かす」という「不易流行」をコンセプトとして日々励む、静岡の漆職人の団体。

匠宿伝統工芸館

〒421-0103 静岡県静岡市駿河区丸子 3240-1 駿府の工房 匠宿内
TEL:054-256-1521 営業時間 10:00~19:00 <月曜休館> 駐車場227台無料



駿府の工房 匠宿は、国内最大級の工芸体験施設。

駿府の工房 匠宿は、静岡に今も大切に伝わる駿河竹筋細工・和染木工・漆・陶芸などのさまざまな工芸体験を楽しんでいただけます。ここ匠宿で、是非かけがえのないものづくり体験をお楽しみください。

匠宿 TRADITIONAL
HAND CRAFT
ARTS CENTER

